

全天候型こどもの遊び場施設整備基本構想 策定に関する補足資料

全天候型こどもの遊び場施設整備基本構想（素案）に関するパブリックコメントでいただいた意見については、以下のとおり、検討すべき項目、補足説明すべき項目として、整理いたしました。

なお、現在、方針が決定していない項目は、継続検討項目として引き続き検討してまいります。検討結果については、隨時、公表させていただきます。

1 検討すべき項目

大区分	中区分	主な項目	件数
1 遊び場	1) 全般に関すること	年齢別遊び場、安全管理、見守り、屋外の遊び場、特性や障がいに関するこ	34
	2) 個別遊具に関するこ	具体的に設置して欲しい遊具、全身運動ができる遊具、静かに遊べるスペース、発育につながる遊びに関するこ	35
2 機能・設備	1) 休憩・交流・居場所に関するこ	飲食スペース、休憩スペース、相談スペース、多目的ホール、遊び場での水分補給に関するこ	33
	2) その他設備に関するこ	駐車場、荷物置き（鍵付きロッカー）、図書館への連絡通路、Wi-Fi、トイレ、一時預かりに関するこ	19
3 館内ルール	1) 施設利用に関するこ	有料・無料、割引制度、予約制、時間入替制、保護者同伴、小学生以上の利用、開館時間に関するこ	60
	2) その他事項に関するこ	イベント、衛生管理、財源確保、人員確保、館内ルール、トラブル・柔軟な対応に関するこ	34
総計			215

2 補足説明すべき項目

大区分	中区分	主な項目	件数
4 建設	1) 必要性に関するこ	規模、説明不足、整備する理由がない、別の方法で子育て支援をすべき、他にすべき重要案件がある	25
	2) 既存施設活用に関するこ	既存施設の活用（廃校、体育館、児童館）	13
	3) 建設地に関するこ	災害リスク	3
総計			41

1 検討すべき項目

1. 遊び場 1) 全般に関すること (34 件)

【意見の概要】

①安全管理に関すること (12 件)

- ・乳幼児の安全確保（仕切り、壁、柱など）、床材をやわらかいもの、障がいがある子も安全に遊べるように
- ・施設内の治安維持のために監視カメラを設置して欲しい。

②年齢別遊び場に関すること (10 件)

- ・年齢別遊び場賛成 ・0歳児～年齢に応じた子どもが楽しく遊べる遊具設置を
- ・乳幼児エリアに、大きな子どもが誤って走りこまないような配慮を

③見守りに関すること (5 件)

- ・各エリアでの保護者がゆっくりと座れる場所

④屋外の遊び場に関すること (4 件)

- ・晴れている日など外にも遊べる遊具があると嬉しい。
(芝生、砂場、水遊び、ブランコ、シーソー、三輪車など)

⑤特性や障がいがある子が利用しやすい環境に関すること (3 件)

- ・障がいがある親子が行きやすい設計、安全にのびのび遊べるように



【検討状況】

①②安全管理は、乳幼児から小学生が同じ空間で遊ぶため、衝突などの事故を未然に防ぐ安全対策を徹底する。遊具の配置見直し、フリースペースの確保、バリアフリー設計の徹底など

①②特に乳幼児エリアは、小学生などの大きな子が誤って走りこまないよう、仕切りなどの設置を検討する。

①施設内の監視カメラは、必要性を総合的に判断する。

③保護者見守りは、子どもが遊ぶ近くの場所で見守りができるようにスペースを確保する。

④屋外遊び場は、財源が限られる中、室内の遊び場整備を優先するため、設置しない。

⑤特性や障がいがある子が利用しやすい環境については、関係団体と意見交換を重ね、利用しやすい環境づくりを検討していく。

【継続検討項目】

①②遊び場の中での衝突などの事故を未然に防ぐ安全対策

①②乳児エリアの仕切り、エリア内の配置の見直し

③遊び場内での保護者の見守り場所

⑤特性や障がいがある子が利用しやすい環境づくり

1 検討すべき項目

1. 遊び場 2) 個別遊具に関するここと (35 件)

【意見の概要】

①具体的に設置して欲しい遊具 (25 件)

- ・大きいトランポリン、アスレチック、ウォールクライミング、ロッククライミング、すべり台、足つぼロード、ハイハイ動作ができる遊具、木のボールプールよりは普通のボールプール、鉄棒、保育園にはない遊具がよい、遊び方が無限にある遊具、木材が多く使われて欲しいなど

②全身運動ができる遊具の要望に関するここと (6 件)

- ・トランポリンやアスレチックなど全身運動ができる遊具、身体を使って遊べる遊具、もっとフリースペースをなど

③静かに遊べるスペースの要望 (2 件)

- ・「動」の活動だけでなく、静かに遊ぶスペースも取り入れてほしい

④発育につながる遊びの要望 (2 件)

- ・子どもの健やかな発達について目を向けてほしい、意識的に発育につながる動きができるような遊具を（ハイハイでなければくぐれないような遊具、鉄棒、設置遊具について作業療法士に意見を）



【検討状況】

①②遊具は、基本構想(素案)で示した、年齢別エリア・遊具例と概ね同じものが求められている。また、全身運動ができる遊具、思い切り走りまわれるスペースも求められており、再度、設計段階で調整する。

③遊びの動きが大きい遊具の中に静かな遊びの遊具が配置されているなど、配置を見直す余地がある。再配置を含め、遊び方、効果など利用者にわかりやすく示す方法など引き続き検討する。

④年齢別に設置した遊具の効果等（発育につながるなど）は、作業療法士に意見を伺い、十分年齢別の発達に寄与する遊具の設置ができていることが確認できた。

【継続検討項目】

①②③④遊具の用途に合った再配置。遊び方、効果など利用者へわかりやすく明示する方法

1 検討すべき項目

2. 設備・機能 1) 休憩・交流・居場所機能に関すること（33件）

【意見の概要】

①飲食スペースに関すること（12件）

- ・軽食の販売、自販機の設置をしてほしい
- ・売店、カフェの設置、キッチンカーの出店

②休憩スペースに関すること（10件）

- ・保護者がゆっくり休憩できるスペース
- ・リラックスできるクッション、ソファー、漫画・雑誌、ドリンクが飲めるブース

③相談スペースに関すること（4件）

- ・子どもの発達に悩む親が気軽に相談できる場、プライバシーが守られる個室だとありがたい
- ・相談スペースは不要、子どもが喜ぶ施設をつくって欲しい

④多目的ホールに関すること（4件）

- ・イベントを開催できるホールの設置

⑤遊び場での水分補給に関すること（3件）

- ・休憩場所に行かずとも、遊び場で水分補給ができるように
- ・ミニシアター、実験スペースなど身体を動かすこと以外のスペース



【検討状況】

①カフェ運営は、施設内で調理ができる環境を整える予定がないため、実施困難。簡易売店（飲食物販売コーナーなど）設置が可能か検討する。併せて自動販売機の設置、敷地内にキッチンカーの出店スペースを検討する。

②休憩スペースは、テーブル、椅子を配置予定。併せてゆっくり休憩できるための付属品（ソファー、クッション、雑誌など）は、どこまで整えるか、検討する。

③相談スペースは、相談しやすい環境づくりを重要視する。併せて、興奮した子どもを落ち着かせる場所（カームダウンスペース）としての機能を持たせることを検討する。

④多様なイベント開催が可能な多目的ルームを整備予定。

⑤遊び場で水分補給ができるよう、館内ルールを検討する。

【継続検討項目】

①②飲食、休憩スペースの検討（自販機を含めた販売コーナー、飲食・休憩用のテーブル、椅子の配置、付属品などゆっくりとくつろげる場づくり）

③相談室兼カームダウンスペースとしての活用

⑤館内ルールづくり

1 検討すべき項目

2. 設備・機能 2) その他設備に関すること（19件）

①駐車場の雨天対策に関する意見（5件）

- ・駐車場は屋根付き
- ・施設入り口近くに一時的な乗降場をつくり、雨に濡れない配慮を

②駐車場の台数確保に関する意見（4件）

- ・駐車場が狭すぎる
- ・完成すると人が集まりそう、駐車場があるのか
- ・職員駐車場の誤った利用がないように

③荷物置き（鍵付きロッカー）に関すること（3件）

- ・子どもと一緒に荷物が多くなるのでロッカーなどがあると便利
- ・靴箱とロッカーに鍵

④図書館への連絡通路に関する意見（2件）

- ・図書館へ行ける連絡通路、日よけ対策

⑤Wi-Fiに関する意見（2件）

- ・Wi-Fi完備だとありがたい

⑥トイレに関する意見（2件）

- ・大人用と子ども用トイレを分けるよりも、大人用トイレの中に子ども用があった方が助かる。

⑦一時預かりに関する意見（1件）

- ・保育園のように子どもの有料での預かり



【検討状況】

- ①屋根付き駐車場は、建設費が大幅に増えるため、整備しない。駐車場から安全に移動できる動線確保を最優先とし、できる限り雨に濡れないような配慮を検討する。
- ②駐車場の台数確保は、施設の利用状況を鑑み、十分な駐車スペースの確保に努める。
- ③荷物置き場（ベビーカー、靴箱、鍵付きロッカーなど）設置を検討する。
- ④施設から、安全に図書館へ移動できる導線を確保する。
- ⑤必要性を総合的に判断する。
- ⑥大人用トイレ、子ども用トイレは、別々がよいか、一緒がよいか再度検討する。
- ⑦子どもの一時預かりは、有資格者の配置が困難であること、近隣の保育園等で、利用可能なため、実施しない。

【継続検討項目】

- ①④駐車場から施設まで、施設と図書館の行き来について、安全に移動できる導線の確保。できる限り雨に濡れない配慮
- ⑤Wi-Fi完備の必要性
- ⑥トイレの在り方

1 検討すべき項目

3. 館内ルール 1) 施設利用に関すること (60 件)

①有料、無料に関する意見 (18 件)

- ・有料でもいい (13 件) (施設の維持管理経費を賄う必要がある)
- ・無料がいい (5 件) (兄弟児が多い家庭は、負担が大きい)
- ・その他 (キャッシュレス決済併用、無料・有料ゾーンの利用者確認 (入館証、リストバンド))

②混雑緩和のために予約制、時間入替制導入に関する意見 (14 件)

- ・賛成 (9 件) 混雑緩和のため人数制限が必要
- ・反対 (5 件) 予約が面倒、子どものリズムと合わない場合がある自由に遊べる方がいい

③小学生以上の利用に関する意見 (9 件)

- ・中高生の利用に関する意見 (Wi-Fi 完備、気軽に談笑、勉強、本を読むスペース)
- ・大人、高齢者の利用に関する意見 (大人、高齢者用の身体を動かす遊び場)

④割引制度に関する意見 (8 件)

- ・年間パスポート、島民割引、兄弟割

⑤保護者同伴すべき年齢に関する意見 (7 件)

- ・保護者同伴が必要 (小学生高学年まで、小学生低学年まで)

⑥開館時間に関する意見 (4 件)

- ・利用開始時間の前倒し (8:30~) できるなら早く開設してくれると嬉しい
- ・閉館時間の前倒し (17:00) 平日は、利用が少ないので



【検討状況】

- ①④遊び場の利用料金は、有料とする。具体的な金額、割引制度は、引き続き検討を進める。併せて有料、無料ゾーン利用者の確認についても引き続き検討をしていく。
- ②予約制、時間入替制は、混雑緩和、安全対策として制度導入を求める声が一定あったことから、導入に向け検討する。
- ③中高生の居場所機能は、利用しやすい環境を検討する。高齢者等の利用は、多世代交流イベントなど、来場しやすい機会づくりを検討する。
- ⑤保護者同伴は、事故、怪我、トラブル対応など保護者同伴を求める声が一定あったことから、一定の年齢未満の児童は、保護者同伴を基本に検討を進めていく。
- ⑥開館・閉館時間は、9:00~18:00 を基本とし、利用状況等を踏まえ、柔軟に対応する。

【継続検討項目】

- ①利用料金 ②予約制の概要、時間入替制の概要 ③中高生の居場所としての活用
- ④割引制度の概要 ⑤保護者同伴の基準

1 検討すべき項目

3. 館内ルール 2) その他の事項に関するここと (34 件)

①多種多様なイベント開催の要望 (11 件)

- ・季節、親子、ものづくり、ボードゲーム、月替わり、ハローウィン、クリスマス

②ランニングコストにかかる財源確保策について (11 件)

- ・企業スポンサー

- ・施設内に飲食店、カフェ（出店料）、飲料、ガチャ等の販売

- ・「企業ふるさと納税」、「クラウドファンディング」は見込みの確定しない収入

- ・遊具や施設の維持管理の費用、施設管理の人員費の方が膨大になりそう。

- ・利用料を取っても維持管理費には全然足りない。

- ・人件費、管理運営費の維持ができるのか。

③衛生管理の徹底に関する要望 (4 件)

- ・感染症対策、清潔な空間

④スタッフの人員確保について (4 件)

- ・スタッフが足りないのでは

- ・保育士が確保できるのか、直営でも福祉、保育分野の人材不足が顕著

⑤トラブル、柔軟な対応に関する意見 (3 件)

- ・マナーの悪い利用者、利用者間のトラブル、クレームなど想定される対応、防止策を

- ・子ども同士のトラブル、怪我など安全面が整っていると安心

- ・最初に決めた方針にこだわることなく、市民の要望に応える形で柔軟な対応を

⑥館内ルールに関する意見 (1 件)

- ・授乳室女性のみ、おむつ交換室男性可



【検討状況】

①関係団体との連携体制を整え、多種多彩なイベント開催ができるよう準備を進めていく。

②ランニングコストに対する受益者負担、市の財政負担の割合を整理する。

③施設内の清掃や消毒などの衛生管理対策を徹底する。

④運営に支障がないよう、スタッフ確保に努める。

⑤⑥他施設を参考に館内ルールづくりを進める。

【継続検討項目】

①関係団体との連携体制 ②ランニングコスト財源確保策 ③館内の衛生管理対策

④スタッフ確保 ⑤⑥館内ルール策定

2 補足説明すべき項目

4. 建設計画に関すること (41 件)

①建設の必要性に関すること (25 件)

i) 規模、ここまで大きくなくてよい (7 件)

- ・建設、維持費に何億もかかる、ここまで大規模でなくてもよい
- ・利用する子どもの数が減ってくる中、ここまで大きな施設はいらない

ii) 説明不足 (7 件)

- ・費用対効果の不明確さ、人口減少、出生数の減少が進む中で、長期的な採算性、利用者見込に疑問
- ・問題点（誰が何にどのくらい困っているか等）が不明瞭で、それがこの施設で解決できる絵が描けていません。

iii) そもそも整備する理由がない (5 件)

- ・少子化なのに 7 億もかけて室内遊戯場をつくる意味がわからない
- ・子どもの遊び場反対、何人の人が利用するのか

iv) 別の方法で子育て支援をすべき (3 件)

- ・設備投資するより、現金給付する方がよい
- ・給食費無料や、保育園、学校関係などの子どもたちが平等にお金のかかる所に財源を使ってほしい

v) 他にすべき重要な案件がある (3 件)

- ・財政難を理由にインフラ整備などが停滞されてしまう
- ・五島市には、生活基盤の整備、教育環境の充実、福祉・防災の強化など緊急性の高い課題が多数存在

②既存施設の活用に関すること (13 件)

- ・遊び場が欲しいのは今です。今解放できる場所を増やして欲しい。
- ・3 年後は遅い。新設にこだわる意味がわからない。ぜひ廃校を有効活用してほしかった。
- ・保健センターや児童館の活用

③建設地に関すること (3 件)

- ・計画地が河川沿いの低地に位置する場合、洪水浸水想定区域・土砂災害警戒区域との重複リスクを慎重に評価すべき



【補足説明】

① 建設の必要性に関するここと

1 本施設の目的と必要性

本来、このような子どもの遊び場運営は、民間が担うべきではないかというご意見があることは、十分承知しております。

しかし、五島市では、離島という地理的条件から、本土のように広域的な利用客が見込めないなど、収益性、採算性に問題があるため、営利目的の民間参入は困難であります。

今回、五島市が全天候型子どもの遊び場を整備する目的は、全ての子どもたちに安全・安心な遊びの場を提供すること、そして、包括的な子育て支援の拠点として、五島市の子育て環境を向上させ、若年世代の UI ターン、定住促進を図り、人口減少の抑制につなげていくことであります。

さらには、このような取り組みを進めることができ、本市の人口ビジョンの目標である 2060 年、人口 2 万人達成に寄与するものであると考えています。

背景、理由としては、近年、気候変動（猛暑・厳冬期、ゲリラ豪雨）が著しい中、遊ぶ場所がなく困っている子育て世帯の声が増えていること。少子化、核家族化、長引くコロナ禍により、地域の関係性の希薄化、子育て世帯の孤立が進んでいる状況があること。さらには、共働き世帯の増加や、地域コミュニティの変化に伴い、中高生、若者の家庭以外の居場所ニーズが高まっていることが挙げられます。

このような諸問題を解決するためには、子どもを持つ若者世代が安心して子育てができる環境を高めていかなければなりません。

本施設は、その一助として、子どもたちが安全に思い切り身体を動かし、健全な発育や遊びを通した主体性、創造性などを育むことができる場所、そして、保護者同士、多世代の交流や、子育ての悩み相談、中高生、若者の居場所など多様な機能を持つ、地域全体の子育て支援の拠点としての役割を果たしていく考えであります。また、単なる遊び場としてではなく、多機能な公共施設として教育、福祉、健康など様々な行政サービスと連携しながら、よりきめ細やかな子育て支援の実現につなげまいります。

【補足説明】

① 建設の必要性に関するここと

2 規模選定の理由

今回、整備する全天候型子どもの遊び場は、乳幼児から小学生まで、幅広い年齢の子どもたちが同時に、安全に遊べる広さとしています。

遊び場のスペースは、 600 m^2 、最大同時利用者 100 名程度を想定しています。これは、市内の小学校の体育館フロア（約 500 m^2 ）よりもひと回り大きい広さです。

想定する利用者は、ニーズ調査の結果から、最適な人数として決定をしております。

また、広さは、保育園の園庭の面積基準（ $3.3\text{ m}^2/\text{人}$ ）を参考に、室内の遊び場であること、遊具を設置することなど、余裕をもった面積が必要であることから、約 1.8 倍の子ども一人当たり 6 m^2 のスペースを確保することとして設定をしております。

【補足説明】

① 建設の必要性に関すること

3 費用対効果と財源確保

本施設の整備・運営に多額の費用を要することについて、「長期的な採算性は?」、「どの程度の利用者が見込めるのか?」、「どのような効果があるのか?」など、市民の皆様が懸念されていることは十分に認識しております。

本施設は、五島市が目指す「2060 年人口 2 万人達成」という長期人口ビジョンを達成するため、多様な機能をもつ地域の子育て支援拠点として、五島市の子育て環境を向上させ、若年世代の UI ターン、定住促進を図り、人口減少の抑制につなげていくものであります。そのため、経済的な収益性のほか、多岐にわたる社会的効果（非金銭的な価値）を見出せるものであると考えております。

効果を図る指標としては、経済的効果（収益性）については、「施設の利用率」、「利用料、その他収入」。社会的効果については、人口ビジョンの達成を担う「出生数」「合計特殊出生率」をはじめ、若者の定住に関わる指標である「40 歳未満の UI ターン者数」、子育て環境の充実を図る指標である「子育て支援満足度」など、複合的に、長期的な視点で効果を検証していきたいと考えています。

また、本施設の整備・運営においては、その持続可能な運営体制を確立するため、公共施設としての機能と、利用者の利便性・利用頻度を勘案し、受益者負担として、利用料金をいただくことを検討しております。継続的に維持管理費を賄いつつ、利用者を増やしていくよう取り組みを進めてまいります。

五島市の財政状況は、人口減少に伴う歳入の減少や、公共施設の維持管理費の増加など、厳しい局面にあります。

このため、五島市が行う全ての施策や事業をしっかりと進めて行けるよう「財政改革プラン」により、歳入と歳出の両面からの財政の健全化に取り組むとともに、将来を見据えた持続可能な財政運営により、必要な財源の確保に努めてまいります。

具体的には、歳入の確保では、「市税徴収率の向上」「ふるさと納税の推進」「施設使用料や手数料の見直し＝受益者負担の適正化」「遊休資産に関する情報の発信と売却、貸付の推進」「債券運用などの基金の有効活用」などに取り組んでまいります。

歳出の抑制では、「市民ニーズや社会環境の変化に応じた事務事業の見直し」「公債費（借り入れ）の抑制＝新規発行の抑制、交付税措置など有利な地方債の活用」「公共施設の統廃合」「デジタル技術の活用による業務の効率化」などに取り組んでまいります。

【政改革プラン】五島市行政改革大綱に基づき、財政指標などの具体的な数値目標を定め、健全な財政運営を推進するために策定しているものです。現在、令和 8 年度から 12 年度までを期間とした「第 5 次財政改革プラン」を策定中で、令和 8 年 3 月に公表予定です。

【補足説明】

① 建設の必要性に関すること

4 他の子育て支援策との関係

本市の子育て支援は、喫緊の課題であり、市の上位計画である第3期五島市まち・ひと・しごと総合戦略においても結婚、出産、子育て支援プロジェクトとして重点事業として位置付け、これまで乳幼児子ども福祉医療の現物給付化や保育料の多子世帯への負担軽減など主に経済的な負担軽減策を中心に独自の取り組みを進めてきました。

今回の全天候型子どもの遊び場整備は、短期的な経済的支援では得られない、持続的な子どもの健全な成長、発達促進や子育て世帯への恒常的なサポート（相談、交流、情報提供など）による育児ストレスの解消など、持続的な社会的価値につながるものであると考えています。

今後も、妊娠、出産、子育てにかかる切れ目のない支援を進めながら、五島市が「子育て世代に選ばれ、安心して子育てができるまち」となるよう努めてまいります。

【補足説明】

① 建設の必要性に関すること

5 緊急性の高い他の案件との優先順位

市民の皆様から、「他に優先すべき重要な案件があるのではないか」「財政難を理由にインフラ整備などが停滞されることは困る」というご意見をいただいていることに対し、真摯に受け止めております。

五島市には、人口減少対策をはじめ、防災・減災対策、デジタル改革への対応、脱炭素化の推進のほか、農林水産業の振興、観光による交流拡大、福祉・教育環境の充実、インフラ整備など、市民の安全・安心な生活を支える上で喫緊の課題が多数存在しており、いずれも市の最重要課題として認識し、全庁一丸となって計画的に取り組んでおります。

特に財源確保については、国からの交付金や特定の事業債など、事業内容に特化した財源を充当しながら、計画に基づいて着実に実施できるよう努めています。

五島市は、厳しさを増す財政状況の中で、全ての事業に対し、徹底した費用対効果の検証と、複数年度にわたる計画的な財政運営を行っています。各施策の重要度と緊急度を総合的に判断し、限られた財源の中で最善の配分を行うことで、各重要施策の遅延を招くことなく、全ての市民にとって住みよいまちづくりを進めてまいります。

【補足説明】**②既存施設の活用に関して**

既存施設の活用は、検討を進めてまいりましたが、活用できる学校が限られ、冷暖房施設の整備など改修費が思った以上に高額になることがわかりました。また、本構想で目指す、発達段階に応じた多様な遊びや気軽に相談できる場、多世代交流ができる施設にするためには、既存施設の改修では、拠点化、規模、使いやすさ、管理のしやすさなど、様々な評価を行った結果、実現が困難であることが判明しました。

喫緊の課題としてすぐに利用できる場所の拡充についても、短期的な視点での対応として、既存の公共スペースの有効活用などを並行して検討してまいります。

【補足説明】**③建設地に関すること**

建設候補地の選定にあたっては、五島市が公表しているハザードマップ（洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域、津波浸水想定区域）との照合結果、いずれの区域に入っていないことを確認しております。

なお、地質調査は、今後、準備が整い次第、実施していく予定としております。